

泉佐野市（佐野高校）多言語避難所シミュレーション報告

日時：2017年11月5日（日）午前9時

参加者：佐野高校ユネスコ・クラブ員7名+顧問、大阪大学2名、泉佐野市職員数名

1. 8時半：佐野高校集合、ユネスコクラブ員、顧問の房本教諭とミーティング
2. 9時3分に緊急警報・メールで大津波警報発令サイレンを確認
*サイレンは、何か緊急な事態が起こったことは理解できたが、発表している内容は、佐野高校の場所からはほとんど聞き取れなかった。（参考）
3. 9時30分：まず高校生たちと避難所になる場所の確認をした。
4. 高校生が準備してきた多言語表記を中心に貼り付けを行う。
*注意点
 - ・貼り付けた後のミーティングで、貼り付け場所を基本的には人の目の高さより上の位置に張り付けること
 - ・クレアの多言語表記をできるだけ大きく見えるように印刷すること。
4. 9時45分ごろ、上町町会自主防災組織の方々が避難所に到着。
5. 川島会長とご挨拶、多言語避難所の趣旨を説明した。
5. 10時：上町町会の方々に、この佐野高校の避難所が、りんくうタウンなどから訪日観光客の方々も滞在できる多言語避難所になる可能性を説明させていただき、おおむね町会の方々にご理解いただいた。



佐野高校キャンパス内では、表示のないトイレなど、外部からの避難所として入ってくる方々にはわかりにくい場所も多く。事前にどこにどのような表記を貼るかを計画しておく必要があると感じた。キャンパスすべてが避難所とするのではないので、避難所としては使えない場所に立ち入り禁止表記の案内などを貼った。



正門や裏門からも入校できるように準備し、それぞれ、案内板に関しては、クリアの表記だけでは小さくてわかりにくいので、裏門では高校生の案で門を入ったところに避難所になる建物の写真を貼り、方向を示す矢印を示した。

*反省会・コメント

- ① 多言語表記の貼る位置を事前に確認
- ② 多言語表記の文字が小さくて目立ちにくい。「受付」「掲示板」「多言語情報あり」など主な表記などは目立つように独自に作ったほうが良いのではないかという意見が高校生から出た。
- ③ クリアの表記で、ペットボトルのことを「ペット」の中国語表記がされているが一般的な中国人にはわからないかも。(泉佐野市の姉妹都市からの交流で来られている中国人スタッフ張さんの意見) クリアの表記も確認する必要もあるかもしれない。
- ④ 校門などには、立て看板を有効活用したほうが避難者にはわかりやすいのではないかと考えた。外で使う表記はラミネートをして雨などにも耐えうるものにする。
- ⑤ 表記はカラーを使い、またはマジックでアンダーラインなどを引いて、目立つように工夫する。